

学校名	笠岡市立笠岡西中学校	学校長名	木村茂徳	事業名	放課後学習サポート事業	0	0	0
-----	------------	------	------	-----	-------------	---	---	---

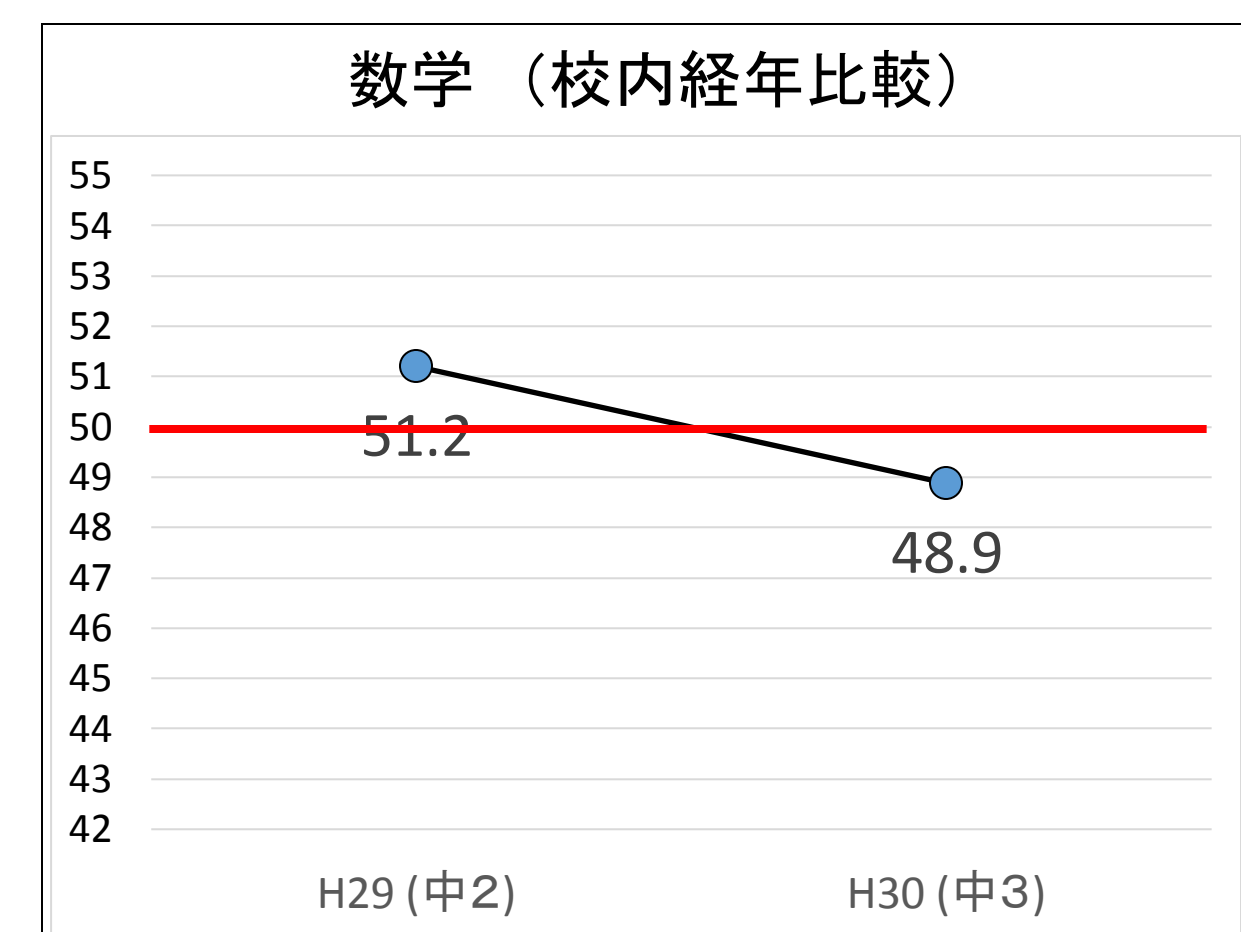
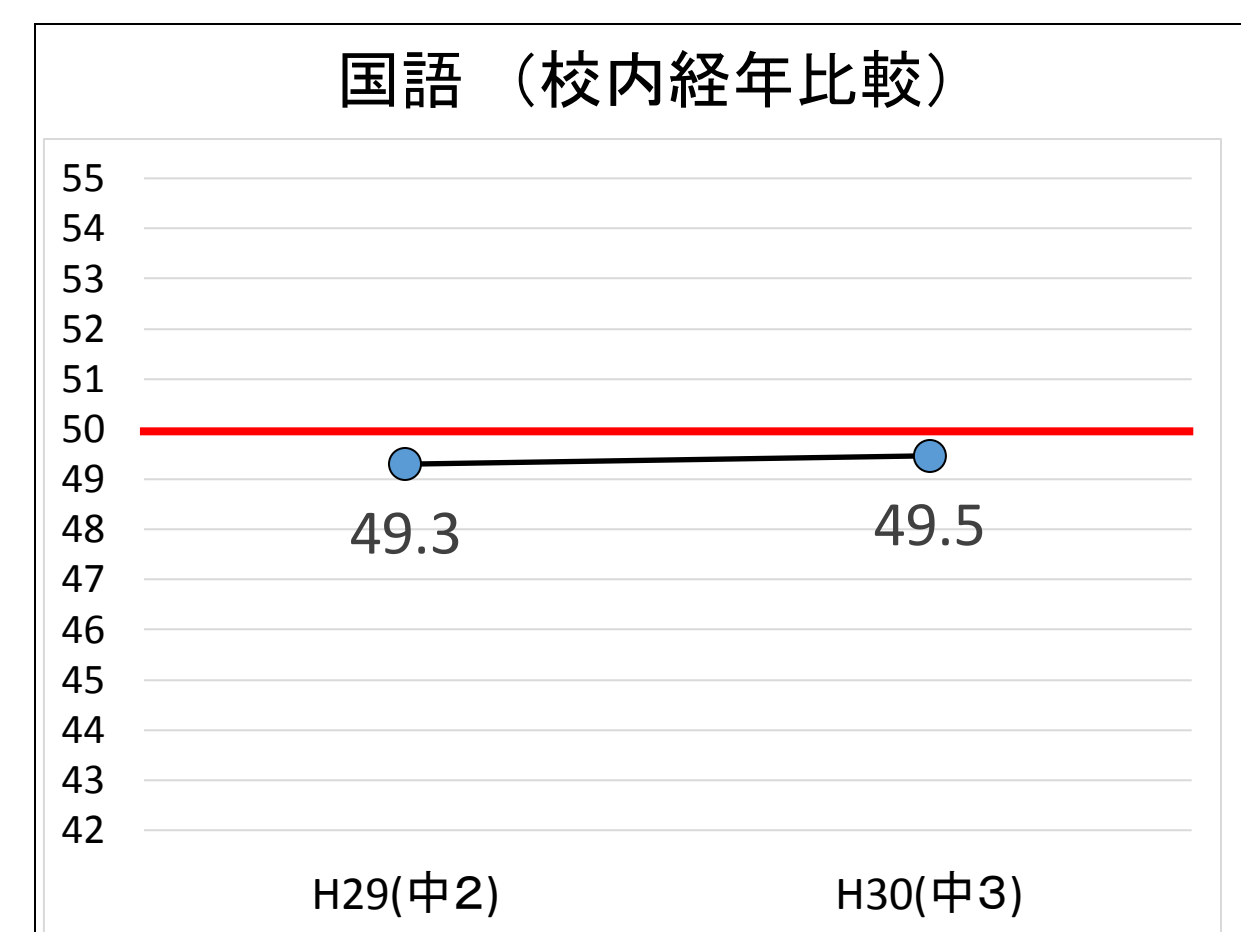
調査結果の概要

科目	全国学力調査結果(教科別 平均正答率・無解答率)											
	国語A		国語B		国語	数学A		数学B		数学	理科	
	平均正答率	無解答率	平均正答率	無解答率	標準スコア	平均正答率	無解答率	平均正答率	無解答率	標準スコア	平均正答率	無解答率
貴校(本年度)	24.0	3.2	5.4	2.8	49.5	23.6	3.9	5.9	15.1	48.9	16.6	5.3
岡山県(公立)	24.2	3.2	5.3	4.0		23.5	3.8	6.2	15.0		17.7	5.8
全国(公立)	24.3	3.1	5.5	3.0	50.0	23.8	3.3	6.6	12.6	50.0	17.9	5.0
全国との差	-0.3	-0.1	-0.1	0.2	-0.5	-0.2	-0.6	-0.7	-2.5	-1.1	-1.3	-0.3

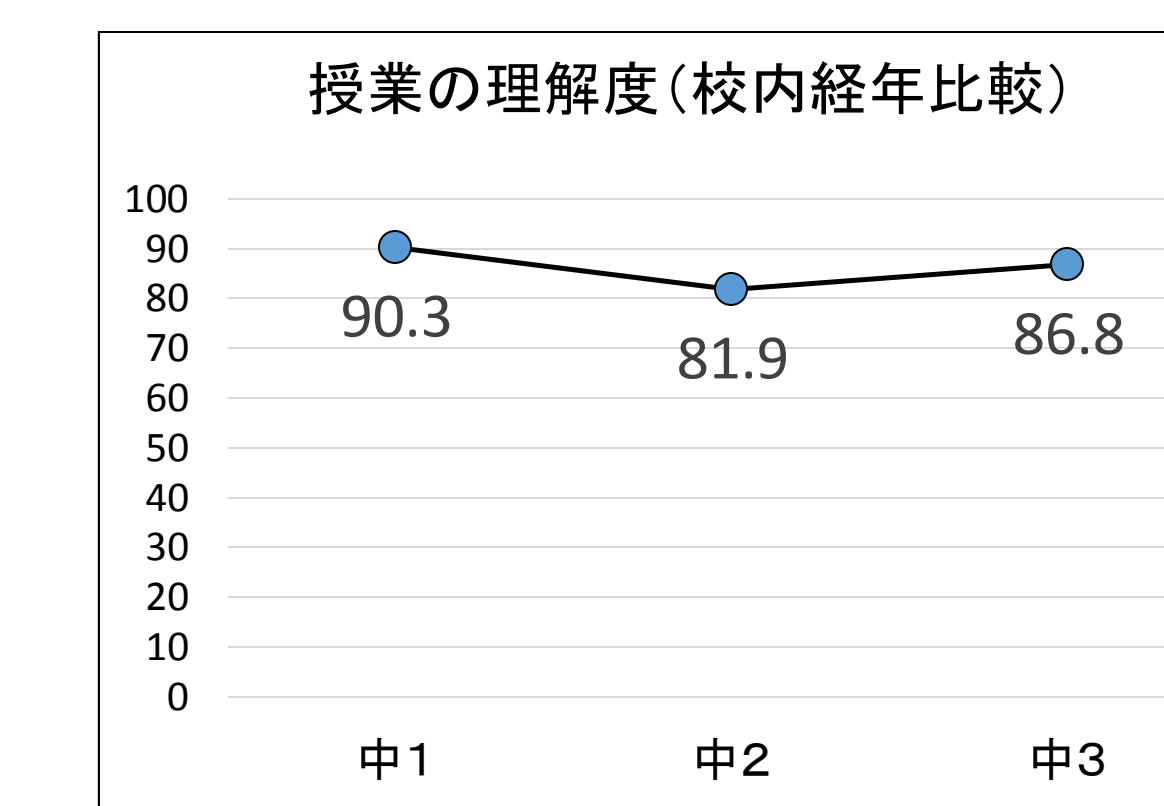
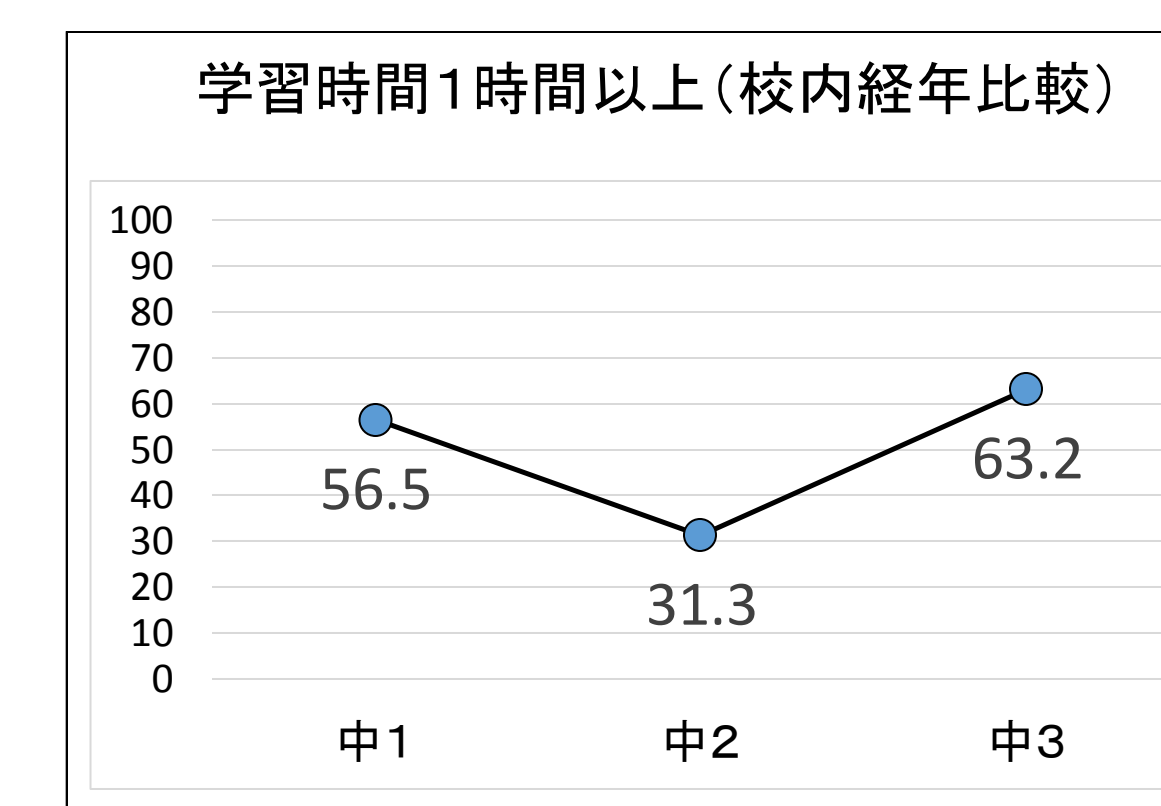
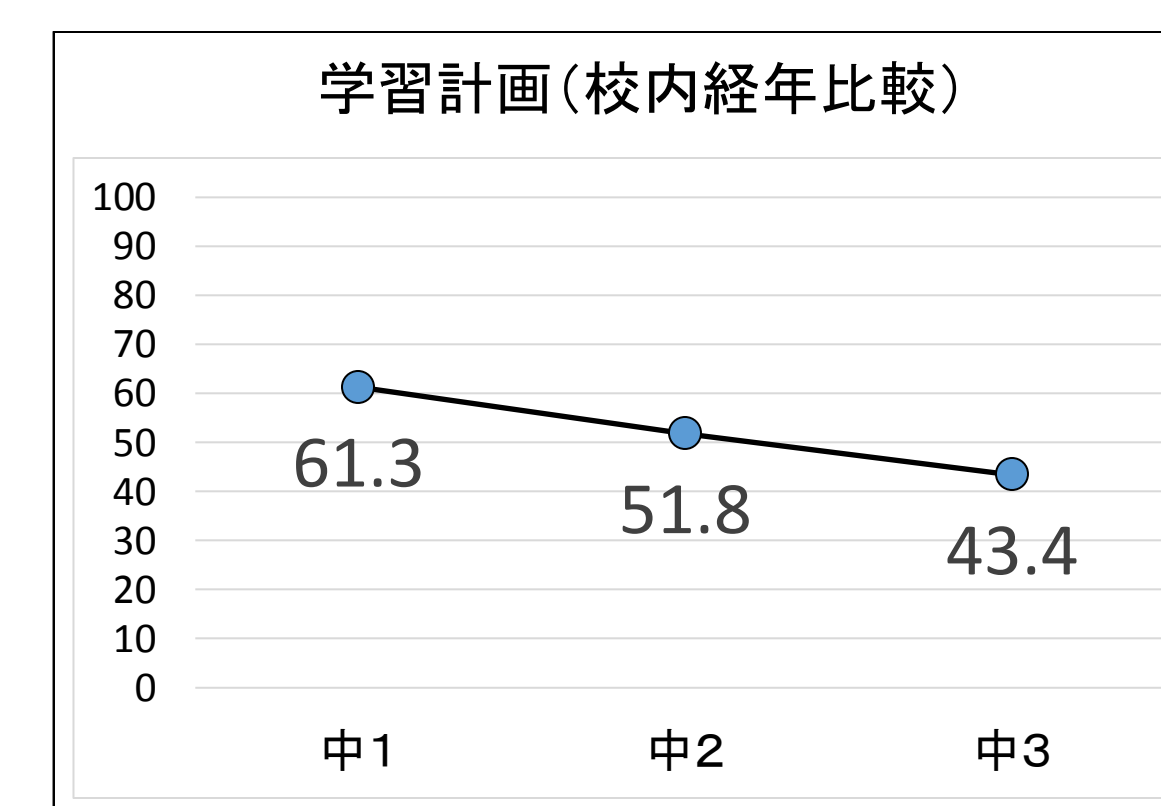
※国語と数学の標準スコアは、各校の平均正答数を入力していただければ、換算できるように、数式を入れてあります。

質問項目	学習状況(質問紙)調査結果									
	肯定率(H28、H29は県調査、H30は全国調査)					H30 全国との差				
	H28(校内)	H29(校内)	H30(校内)	H30(全国)	全国との差	-10	▼	10		
(10) 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。(肯定率=している+どちらかといえば、している)【参考】H28 県調査中1質問紙(36) H29 県調査中2質問紙(30)	61.3	51.8	43.4	52.1	-8.7					
(14) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まず。)(肯定率=1時間以上)【参考】H28 県調査中1質問紙(20) H29 県調査質問紙(追加質問14)	56.5	31.3	63.2	70.6	-7.4					
(29) 数学の授業の内容はよく分かる。(肯定率=当てはまる+どちらかといえば、当てはまる)【参考】H28 県調査中1質問紙(57) H29 県調査中2質問紙(89)	90.3	81.9	86.8	71.0	15.8					

過年度 岡山県学力調査結果(教科別 標準スコア・無解答率)		
	国語	数学
中2時(H29)	標準スコア 49.3	標準スコア 51.2



※ 標準スコアは、平成29年度納品データの〇〇立〇〇中学校①学力(00)の【Web経年】の、各教科の中2の標準スコアを転記してください。



全国学力・学習状況調査の結果の分析 (※ 中学校入学後との経年比較、今年度の全国比較の結果を踏まえて記入)

成果	課題
<p>【学力状況】 ○「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする事ができている」と答えた生徒の割合が、84.2%と高い。これは、「学び合い」や「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業についての校内研修を行い、教師の授業力を高めてきたことによる成果であると考えられる。そのことにより、生徒の学びに向かう力を高めることができた。 ○授業での小テスト、月2回の国数英の学力補充の時間や定期テスト週間における質問教室の実施により、生徒のつまづきを把握し、それぞれに応じた学習支援(補習等)を行うことができた。</p> <p>【学習状況】 ○きめ細やかな生徒理解に努め、生徒同士、生徒と教師の人間関係作りを深める中で、落ち着いた環境の中で日々の学習に向かうことができています。 ○「学習の手引き」の使用や、また小中連携で「家庭学習啓発週間」の実施などにより、短時間でも家庭学習に取り組む生徒が増えた。</p>	<p>【学力状況】 ○国語では、読み手や聞き手のことを考えて、自分の伝えたいことを表現するという部分に課題がある。自分の伝えたいことを表現するために欠かせないのは、語彙であるが、語彙力が弱い。また、自分の考えをまとめて文章で表現することが不得意である。 ○数学では、数学への関心意欲は高いものの、関数に関する基礎的理解が不十分である。また、確率についての基本的意味が理解されていない。また、ことからの成り立つ理由や与えられた条件で説明するなど数学的概念や思考を言語化する事が苦手としている。 ○理科では、全体的に正答率が低い。実験には積極的に参加しているものの基礎的な知識の定着が不十分であることが一因と考えられる。また、示された図を見ることや活用することを苦手としている。</p> <p>【学習状況】 ○家庭学習の習慣が身につけていないことが学力不振につながっている生徒が多数見られる。経年比較をしても、自分で学習計画を立てる生徒が年々減少傾向にあり、学習時間も2年時に比べれば若干増えてはいるものの、予習復習をしていると答えた生徒の割合は低く、まだまだ定着しているとはいえない。 ○普段のテレビやビデオ、DVD等の視聴時間がやや多く、その分、家庭学習の時間が短くなっている。ゲームやインターネットをしている生徒の割合も多い。宿題はしているものの自ら進んで学習する習慣が十分に身につけていない。</p>

具体的な改善の目標設定とその方策

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(2月末現在)	達成度	次年度への改善点
【学力状況】 基礎的・基本的な学力の定着(特に書くこと、読みとることについて)	高等学校受験期までに	1月の習熟度テスト(校内)で個々が設定する目標点に到達する。	・国語科だけではなく、全教科を通じて、書くこと、読むことに力を入れていく。 ・相互授業参観や職員研修を通して、授業力の向上を図る。 ・主体的・対話的で深い学びをめざした授業の工夫により、生きた知識・理解の習得や思考力の向上を図る。特に、様々な資料から必要な情報を読み取ったり、関連づけたりして課題を解決するような学習活動を、様々な教科で設定する。 ・学習成績下位層について個別の学習課題を分析し、学力補充の時間や放課後を利用した学習支援の充実を図る。					
【学習状況】 家庭学習の定着	高等学校受験期までに	1日の家庭学習時間が1時間以上の生徒が80%を越える	・「家庭学習の定着」を学校の重点目標の1つとし、全校で取り組む。 ・昨年に続き、メディアコントロールの重要性の理解を深めさせ、主体的に生活習慣を見直そうとする意識を、CCNの取り組み等を通して学校全体として高める。 ・毎日の「自分ログ」(生活ノート)の活用や、道徳、学活の時間を中心に、自律心やコミュニケーションスキルの向上を図る。					

※達成度 「S: 目標を大きく上回った(100%超)」「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E: 目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○中学校区での小中連携教育として、年に数回、各校の担当者同士で話し合う会を設定し、共通理解を図る。また、総会を開催し、保幼小中連携の意識化を図る。 ○各学期1回設定している「家庭学習啓発週間」の意義について情報交換を推進し、啓発内容について共通理解を深め各校の取り組みを充実させる。 ○それぞれの学校で行われるオープンスクールや研究授業などの機会を有効に利用し、児童・生徒の様子や指導方法について相互理解を深めるとともに、共通した方向性をもてるようにする。</p>	<p>○ホームページ等を通して、各学校の様子を知らせ、学校教育への協力を得る。 ○学校支援ボランティアの積極的な利用や、オープンスクール期間の工夫により、地域住民が学校を訪れる機会を増やす。 ○「家庭学習啓発週間」には、保護者が子どもたちの家庭学習習慣を支える意識を高められるような工夫をする。</p>